

新たな図書館像（図書館ビジョン（仮称））の基本的な方向性について

こども青少年・教育委員会資料
令和5年9月14日
教育委員会事務局

令和5年5月市会において、横浜市立図書館の現状と課題を踏まえ、目指すべき図書館の姿や取組の方向性をお示しする図書館ビジョン（仮称）を令和5年度中に策定していくことをご報告しました。その後、市民ワークショップでいただいた市民の皆様からのアイデア・ご意見や、調査等を踏まえ、図書館ビジョン（仮称）の基本的な方向性を整理しましたので、現在の状況をご報告します。

1 検討状況について（「参考資料」参照）

(1) 市民ワークショップの開催

市民の皆様から魅力的な図書館になるためのアイデアやご意見をいただくため、「横浜市の図書館の未来を語るワークショップ」を、開催しました（134人参加、6～7月開催）。サービス面については、多様なイベントが開催されること、インプットだけでなく体験・実践もできること、交流して知識を共有できること、司書が本・人・情報・活動をつなぐことで図書館がまちの魅力に出会える場となることなどのご意見がありました。

施設面については、立地・アクセスの良さや、安全・安心・清潔であること、建築的に魅力的な図書館への期待、子どもが安心して過ごせる環境があること、子どもの声が許容されるなど、多様な過ごし方が共存できるスペースがあること、インクルーシブな居場所となることなどのご意見がありました。

(2) 先行事例調査

令和4年度に続き、国内外の図書館（複合施設含む）の先行事例について、「市民の交流・活動」「子育て支援」「まちの魅力づくり」などの視点から施設・設備や取組、運営面での工夫などを調査しました。

【主な事例】

- ・市民の活動・交流を支えるスペース、活動・交流を促すイベント等の企画
- ・遊びや体験スペース、子育て相談サービスなど複合的なサービス提供、居場所づくり
- ・地域の文化や専門家に出会える企画、まちの回遊性・集客効果に留意した立地

(3) 有識者意見聴取

図書館ビジョン（仮称）策定にあたっての視点・要素などについて、有識者から意見聴取を行いました。基本的な図書館のあり方、機能、施設や効率化について、また図書館とコミュニティ形成、居心地よく過ごせる居場所となるための工夫、子どもや子育て支援での図書館への期待など、多くの示唆をいただきました。

【主なご意見】

- ・本や読書を核とした情報へのアクセスを保障する場
- ・異なる機能との連携による相乗効果が期待できる
- ・デジタル導入による効率化
- ・誰もが主体になれる場、コミュニティが自然に生まれていく環境づくり
- ・子育て世代への周囲の温かい眼差しと寛容的な雰囲気づくり

2 図書館ビジョン（仮称）の基本的な方向性

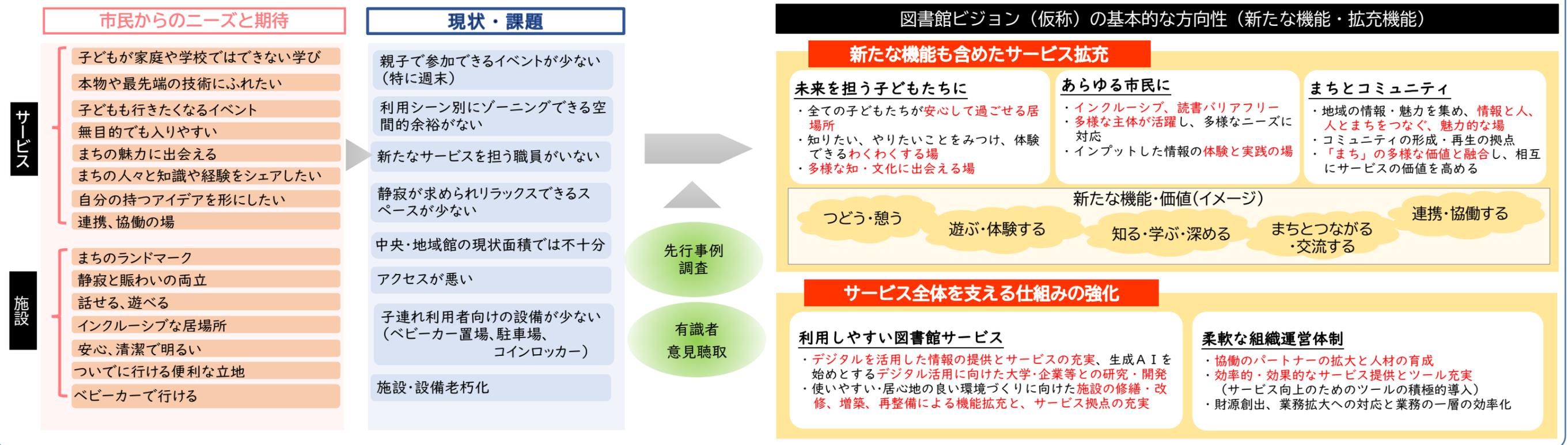
これまで図書館が担ってきた、本や読書を核とした情報へのアクセスを保障する機能の充実に加え、新たな機能・価値を提供することが求められています。

豊かな学びへの寄与、居心地の良い環境、さらにまちの魅力づくりへの貢献を目指し、図書館の機能・施設の拡充により「新たな機能も含めたサービスの拡充」を図るとともに、「サービス全体を支える仕組みの強化」について、基本的な方向性を検討しています。（下図「図書館ビジョン（仮称）の基本的な方向性」参照）

3 今後のスケジュール

- 令和5年12月 素案公表、市民意見公募、有識者からの意見聴取
- 令和6年2月 市民意見公募結果まとめ
- 令和6年3月 原案策定・公表

【図：図書館ビジョン（仮称）の基本的な方向性】



参考1 市民ワークショップ～実施概要

市民ワークショップを4回実施し、計134人が参加されました。「行ってみたいくなる図書館」「子育てと図書館」「まちの魅力づくりと図書館」の3つのテーマに分かれてグループディスカッションを行い、図書館ビジョン策定に向けて、横浜の図書館の未来について語り合っていました。

(1) 応募期間・対象等

期間：令和5年4月21日(金)～5月25日(木)
 対象：横浜市内在住・在勤・在学の中学生以上の方
 定員：160人(各回40人)

※199人のご応募があり、年齢構成等に配慮した上で抽選しました。

(2) 実施日・場所・参加者内訳

当日参加者134人(参加通知者160人のうち約84%が参加されました)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
第1回(6月11日、ウィリング横浜)	6	3	2	6	8	6	2	33
第2回(6月18日、都筑区役所)	3	0	4	8	6	7	7	35
第3回(6月24日、神奈川公会堂)	1	3	9	5	6	7	3	34
第4回(7月1日、二俣川地域ケアプラザ)	2	1	3	7	7	7	5	32
当日参加者総計	12	7	18	26	27	27	17	134
【参考】参加通知	12	8	24	33	33	31	19	160



(3) まとめ

当日の発表から、共通する事柄等をまとめました。

蔵書充実など本を借りることを前提とし、更なる機能の充実について多くの話し合いがされていました

テーマ 行ってみたいくなる図書館	テーマ 子育てと図書館	テーマ まちの魅力づくりと図書館
<p>居場所としての図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> 気軽に行けるアクセスの良さ 行く目的となる魅力的な空間や居心地の良い場 不登校の子どもや障害者の方、誰にとっても安全で安心して過ごせる場所 <p>学ぶことができる図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的な知識の学び 答えのない問いやこれまでにない視点からはじまる新しい学びの展開 市民の知識や経験のシェア デジタル化による利便性向上 <p>交流することができる図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流スペースと静かなスペースが共存するゾーニングの工夫 ブックトーク等本を介した交流イベントや、料理教室、コンサート等、本や読書にとらわれない多様なイベントや設備 様々なアイデアを交換し合う場 	<p>安心して子どもを連れていける場所</p> <ul style="list-style-type: none"> 清潔、安全、安心 声を出しても大丈夫、注意書きが少ないなど子どもや保護者を許容する空間 多様な子育て環境に対応した、利用しやすい立地・時間の図書館 公園の近くなど一日過ごせる環境 <p>親子で楽しめるサービス・イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> おはなし会等本を介したイベント 子どもと実社会がつながる学びの機会やイベントや専門家・企業とのマッチング 親や家族にとっても図書館を利用しやすくなるサポート <p>子育て・子育てにいい資料・メディア</p> <ul style="list-style-type: none"> 実物に触れたり、体験できる場 本と体験が相互に連携した取組 子どもが一人で探しやすい配架や検索システム 	<p>まちの魅力づくりと図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築的にも魅力的な図書館 他の公共施設等の連携による身近で、かつ地域性のある図書館 障害のある方や一人暮らしの高齢者の方等、支援が必要な人へのサポート <p>地域資源と図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜で活動する様々な人や団体そのものが重要な地域の資源 本や人、情報、活動をつなぐ司書 図書館運営に関わる市民の存在 <p>つながりづくりと図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> インプットも、アウトプットもできる場 共通の趣味や目的での学習会やコミュニティ活動 子育てや仕事を通じて生まれ、広がるつながり 多世代、インクルーシブ、さらに大学、企業、団体との交流の場であり学びを社会還元できる

参考2 先行事例調査(写真はいずれも各施設公式サイトより)

令和4年度に続き、国内外の図書館(複合施設含む)の先行事例を調査しました。

(1) 市民の活動・交流

市民活動を行える、様々なスペースを用意する事例が出てきています。単なる貸館ではなく、図書館がイベント等を企画することで、活動・交流を促しています。



信州・学び創造ラボ(県立長野図書館)
 「共知・共創ー共に知り、共に創る」がコンセプト。3Dプリンター等でモノづくりができる



(2) 子ども・子育て支援

読書だけではなく、遊びや体験のスペース、子育てに関する相談サービスや一時預かりなど、子育て世代のニーズに合わせた複合的なサービスを提供している事例がありました。このほか、専門スタッフを配置するなど、運営体制の充実も図られている事例や、ざわめきの許容を掲げ、子どもの居場所づくりに寄与する事例もありました。



子どもエリア(石川県立図書館)
 絵本、読み物、知識の本が緩やかにゾーニングされており、閲覧席は遊具と一体になっている。



託児室(ゆいの森あらかわ*)
 ※図書館、文学館、子どもひろばの融合施設



「子どもの声は未来の声」のメッセージ(抜粋)
 (ぎふメディアコスモス* 岐阜市中央図書館)
 館内での子どもの声やざわめきを許容し、みんなで見る環境をつくる。※図書館、市民活動交流センター、多文化交流プラザ、展示ギャラリー等の複合施設

(3) まちの魅力づくり

地域の文化や専門家に出会える企画を実施したり、まちの回遊性・集客効果に十分留意した立地、また、コンセプトを表現する建築デザインに留意した事例などがありました。



おとなの夜学(ぎふメディアコスモス)
 岐阜の地域文化に通じた様々な分野の専門家を招き、対談やパネルディスカッションを行う



「開放感」と「街との360度の接点」という言葉で表現されるデザイン
 (オーフス市中央図書館 Dokk1(デンマーク))
 所在：オーフス(デンマーク)(人口36万人)
 開館年：2014年 蔵書：約40万点
 床面積：約60,000㎡(内、図書館機能約17,500㎡)

参考3 有識者意見聴取

新たな図書館像（図書館ビジョン（仮称））の構築にあたり、有識者の皆様に、他都市や海外の事例や日頃のご経験なども踏まえ、検討において留意すべき点や示唆をいただきました。

分野	氏名	所属等
学識経験者 (図書館情報学)	吉田 右子氏	筑波大学図書館情報メディア系教授
	桑原 芳哉氏	尚絅大学現代文化学部教授
	小泉 公乃氏	筑波大学図書館情報メディア系准教授
学識経験者 (コミュニティ政策)	石井 大一郎氏	宇都宮大学地域デザイン科学部准教授
開館立ち上げ・ 組織経営	豊田 高広氏	フルライトスペース株式会社
空間設計（建築・ まちづくり）	牛込 具之氏	株式会社佐藤総合計画
子育て支援 実務経験者	東田 信子氏	神奈川県地域子育て支援拠点かなーちえサテライト 現場責任者
	鳴神 美穂子氏	西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート施設長
	横田 美和子氏	南区地域子育て支援拠点はぐはぐの樹 施設長
	島 美奈子氏	青葉区地域子育て支援拠点ラフル 施設長
コミュニティ形成 実務経験者	大塚 朋子氏	認定特定非営利法人こまちぷらすウェルカムベビープロジェクト・こよりどうカフェマネージャー
	細井 綾氏	認定特定非営利法人こまちぷらすウェルカムベビープロジェクトサブマネージャー

項目	主なご意見
図書館のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、みんなが知っていて、理由なく気軽に入れる公共施設 ・本・読書を核とし、知識と情報・メディアへのアクセスを保障する場 ・文化の継承や社会貢献、リテラシーも重要 ・図書館を新設する場合、賑やかで会話ができる北欧型の図書館が志向される ・共創（人と出会い、共につくる）をベースにした、社会とかがわる場/創造の場
機能	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる機能が図書館にあることで、担当者間の連携促進や相互送客の効果を見込める ・子育て支援に加え、幅広い視点から若者のサポートが見える形が望ましい ・将来を見据え、今後主流となる電子的資源の提供（電子書籍や電子化した地域資料の公開等）や電子的サービス（AI、デジタルレファレンス、オンラインプログラム等）を積極的に展開することが望まれる
施設 (ハード)	<ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館に行けない利用者に対して、図書館に親しんでもらうために分館の役割は非常に重要 ・ハード面の整備については、図書館の数を増やせばよいということではなく、利便性の向上に資する整備を進めることが大切 ・まちのアイコンになるためにデザインも重要
空間	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館空間の最大の特徴は間仕切りのないオープンな「ワンルーム空間」。活動の連鎖、経験の連続性により、読書や体験、サービスが豊かになる ・複合から融合へ。図書館を媒体とし各機能が空間的・機能的に有機的に繋がっていく ・環境配慮。ZEB。グリーンインフラとしての図書館
効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米では、デジタルなど新しい技術の導入や物流等のバックオフィスの効率化により、市民のためのサービス提供に注力している ・デジタル化を踏まえて、アウトソーシングの枠組を見直しても良いのでは ・地元企業と連携し、図書館業務のDX化を推進できるのでは。実証実験に取り組んではどうか
交流・ コミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、誰もが行って何でも語っていい、呟けるという場所であり、それは市民自らがデザインする、主体形成に寄与する場所になりやすい ・地縁のない人の増加、未婚化の進展を想定すると、図書館が、子どもを持たない人たち、結婚を選択しない人たちと地域とのハブとなることもできる ・参加と協働を生み出すコーディネーター人材が必要 ・図書館は、コミュニティが自然に育まれていく環境をつくる。触媒的な役割を図書館員が担う ・図書館が、利用者と対等であり一緒に場を作っていくイメージを持つことが重要
居心地の良さ・居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てをされていて、気分転換したいときに過ごせるような、居心地の良い空間が図書館にできると良い ・静かに過ごしたい方、小さいお子さんがいるなど静かに過ごすことが難しい方が交わり、それぞれが安心して過ごせることが大切である ・スタッフとの会話や利用者同士の会話を促すためにも、掲示物等はできる限り減らす
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は静かにしなければいけない雰囲気があり、行きづらいと感じる方もいる。子どもと一緒に居やすい、周囲の温かい眼差しと寛容な雰囲気が重要。ハードにもそれが表れているとよい ・図書館の子育て支援は、図書館ならではの絵本があるからできる役割を担ってほしい ・ベビーカーで利用できることは基本。子育て世代に向けた設備も大切 ・子どもから話しかけやすい環境にしてほしい、わからないことがあったら聞ける、あるいは司書などに本を読んでほしい、解説してほしい、などの要望が言いやすい